



「東海道中膝栗毛」の挿し絵です。東海道から伊勢神宮への分岐点・追分の茶屋を描いています。

この犬も伊勢参宮犬だったかも？

# 文書館 もんじょかん 動物記



書庫に棲む動物たち

11

# 戌

いぬ

「東海道中膝栗毛」（柳井市金屋小田家文書 和 334）より

## 長州犬の伊勢参り

### 1. 犬の伊勢参り

江戸時代、全国各地から多くの人々が伊勢参りの旅に出かけました。

仁科邦男氏『犬の伊勢参り』（平凡社新書 2013）によると、江戸時代後半から明治初年にかけて、犬が伊勢神宮に参詣する出来事、「犬の伊勢参り」が全国各地で目撃されたといえます。

「犬の伊勢参り」は、奇談・怪談ではなく、起こりうる出来事として当時の人々に認識されていました。

### 2. 文書館所蔵文書にも記されている犬の伊勢参り

当館の所蔵文書の中にも、伊勢参宮犬の記事があります。

萩藩の公的記録である「諸事小々控」や、「当職所日記」「密局日乗」など藩の役所日記、あるいは山陽道沿いの宿場町に残された記

録などに、文化 9～11 年（1812～14）の伊勢参宮犬に関する記事があります。

### 3. 萩に送られてきた伊勢参宮犬

文化 9 年（1812）5 月、「赤まだら女犬」が青駄に乗せられ萩に送られてきました。添えられていた文書には、萩の大岡三郎左衛門が伊勢参りに送り出した犬だ、と書いてありました。この犬は、参宮の途中、姫路近くから送り返され、出雲街道、山陰道を通って萩に来たのでした。

さっそく萩藩が調べたところ、大岡三郎左衛門なる人物は萩にはおらず、伊勢参宮犬を送り出した者もいませんでした。真相は不明でした。結局、この犬は藩が飼うことになり、のちに、萩の椿八幡宮へ譲られました。

#### ○諸事小々控（31 小々控 19）

藩の重職である「当役」に附属する役所・御用所で利用された記録シリーズです。伊勢参宮犬の記事は、毛小々控 19(49 の 36)にあります。

#### ○当職所日記（19 日記 22）

藩の重職である「当職」に附属する役所・当職所で作成された公務日記です。伊勢参宮犬の記事は、文化 9 年 5 月 4 日条、同 8 日条、11 日条、および文化 11 年 2 月 20 日条にあります。

#### ○密局日乗（19 日記 18）

毛利家や萩藩の歴史に関する調査を主に担当した役所・密用方の公務日記です。文化 11 年 2 月 27 日条に記事があります。



#### 4. 伊勢参宮犬、子連れで願いを成就する

文化10年（1813）6月ごろ、この犬は神社を逃げ出し、萩から姿を消しました。

ところが、翌11年2月ごろ、この犬が駕籠に乗せられ明木まで帰ってきたのです。

添えられていた文書によれば、犬は、前年11月頃、山陽道沿いの宿場周国久米（現下松市）で子犬を産んだのち、親子連れで正月に伊勢にたどり着き、伊勢参宮を成就したというのです。文化11年はちょうど戌年に当たりました。

犬には、街道沿いの人々が寄附したたくさんの金銀銭のほか、伊勢参りを褒め称えた10首もの歌が括り付けられていました。2首紹介します。

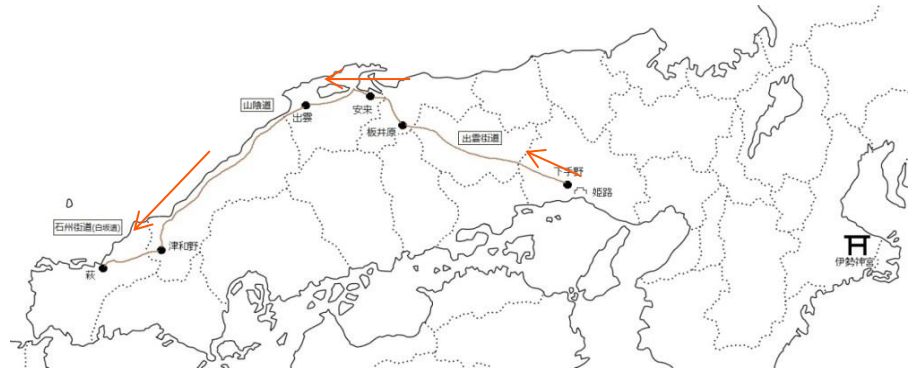
あし曳の山こへ野こへ長門より

伊勢へまうつる犬そためしき

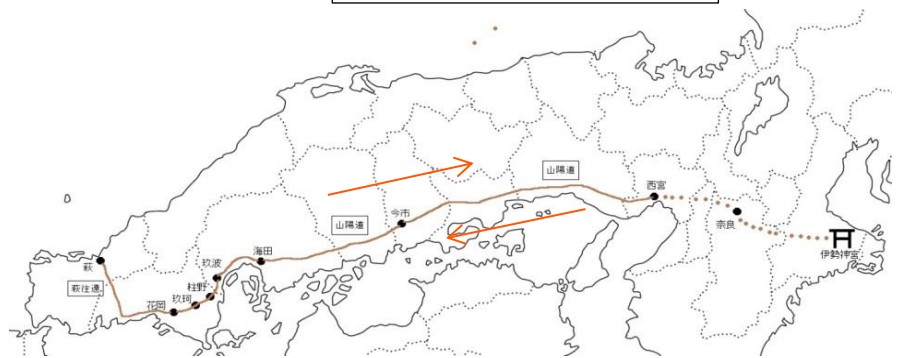
天照す神の恵のうらゝかに

おをふるさとへ帰る犬かな

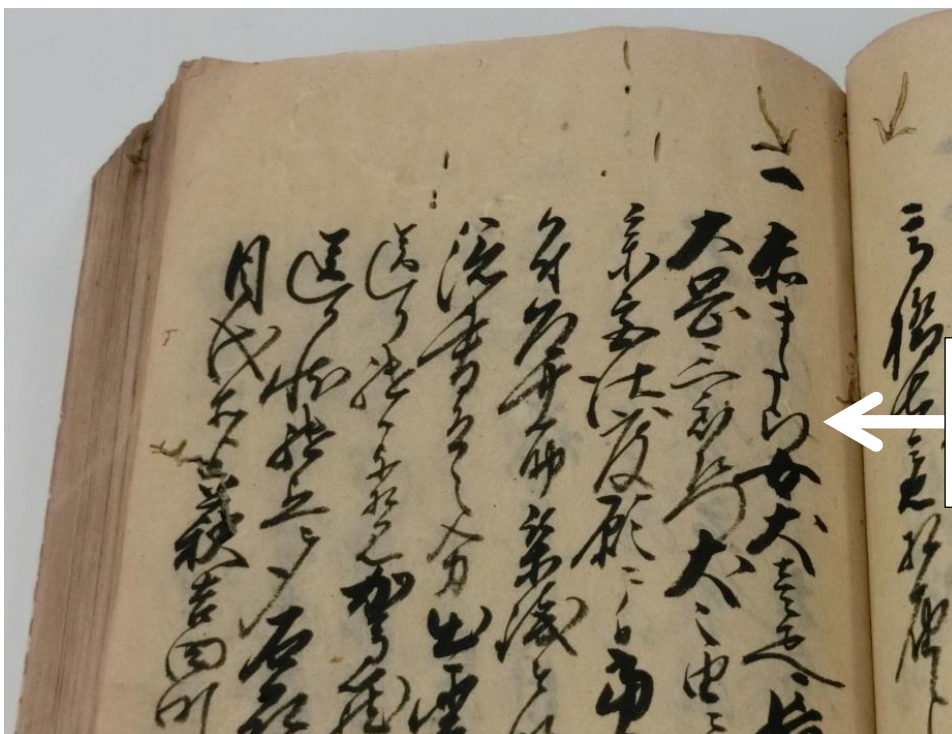
萩に帰ってきた犬は、ふたび萩の椿八幡宮で暮らしたといいます。



文化9年、伊勢参宮犬が萩に送り返されてきたルート



文化10年末～11年初めの伊勢参宮ルート



「当職所日記」文化9年5月4日条に記された伊勢参宮犬「赤またら女犬」。茶色と白のブチ犬だったようです。